

# 「家がいいね」 第177号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2019. 2. 6

命とは 動くものらし 川面のように

生きることは食べることで、当たり前のように思ってきました。長生きしたけりや〇〇を食べるな、〇〇をしろ、の呼び掛けに惹かれる気持ちもあります。しかし私は「動的平衡」(福岡伸一)を読み、生命観が死生観が変わったと感じました。幼時に濁流を見続け、その波頭が遡るよう思えて不思議でした。川は何時もそこに在るものだと信じて疑いませんでした。今は、絶えず新しき水が流れ下りつつも同じに見えるのだと、改めます。身体の構成要素も、順に入れ替わって保たれること、壊しながら造り上げる仕組みと知りました。食べ続けることは自然です。栄養も外界の生物から体内に取り入れるために、最小構成単位(文字なら、アルファベット)まで戻され吸収されます。実態を毎日変える身体を、意識は変わらないと思えるよう繋ぎます。これも不思議な「いのち」の働く様子です。命の川はガンジスのような大河へ、そして大海へと至れば、流れは見えなくなります。だが、水はいつどこでもからも天に戻り、降り注ぐとは思えませんか。



「死に水をとり」の本当の意味

人生の最期まで「食べてほしい」は、まず家族の願いです。「食べたい」は本人の気持ちだと思います。誤嚥性肺炎を防ぎ、口腔ケア・嚥下ケアに邁進するスタッフの活躍には頭が下がります。

ただ本人が言う「行かせて」↓「逝かせて」を、誰もすぐに「逝っていいよ」とは言えぬ時間があります。レットイットゴー(ありのままに行う)という時間を共有するのは大切です。「難しい」と拒否しないでもらいたいものです。血圧が測れなくても、息遣いを見守り、水分さえ飲めなくても、唇を湿すことはできます。このような経験を積み、ようやく私にも、我々の先祖が、どのように臨終の床で振る舞い、本人がその時間を受け容れたのか、その一端に触れたように思います。その時に及んで、まだ点滴や医療処置は必須でしょうか？

カルテからつぶやき 7

外来の方はクリニックを訪れ、相談や診察が始まります。在宅も家族の方(時として本人も)が、まずクリニックに相談に来ていただき始まります。何に困っているのかをお聞きし、当院の取り組み方を伝え、双方の合意のもとに訪問診療を始めることとなります。退院できると思われれば、どんな病状でも、お断りするような例はありません。こうやって十数年経ちました。するとカルテが実は、あの方とこの方が繋がっていたということをお教えてくれます。「私もがんです」と親と子から言われました。ウツの親に、そつと子の落ち込みを託されていました。各自の悩みの聴き取りを続け、後で互いの関係に気付くのです。縁のつながらりに、「この世間って狭いものだなあと思います。人と人は引き合うものがあるのだとも思います。」

講演…いのちを受け止める街へ

「介護タクシーからの夢」

3月17日(日) 1時

津市 アスト津 4階

講師…山田和男さん

妻を緩和ケア病棟で

送り地域にもホスピス

運動が必要と、豊橋市

での活動を語られます。無料 事前申込不要

(主催…みえ生と死を考える市民の会)



情報は、必要と思う所から

インターネットでは、弱者が実情を知る使い方ができます。「製薬マネーと医師」で検索をしてみましょう。ワセダクロニクルというページです。製薬会社が医師に支払った年間の金額を公表していますが、それを集計したものです。試みに私の名前(遠藤太二郎)をマネーデータベースにいれましが、当然ですが0件です。あなたの主治医名を漢字で入れると、意外にも結果が表示されるかもしれません。年間総額で車が買えるような金額の方もおられます。その医師が製薬会社の意図と違う薬の使い方をするのは難しいことでしょう。



自宅での人生を  
最期まで支援します

〒516-0805

三重県伊勢市御園町高向 927

電話 0596-20-8104

ファクス 0596-20-8105

メール [homecare@kr.tcp-ip.or.jp](mailto:homecare@kr.tcp-ip.or.jp)

ホームページ <http://isezaitaku.com>

↑バックナンバーはここで閲覧可